
なんでもない夜

4えこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんでもない夜

【Nコード】

N5939G

【作者名】

4えこ

【あらすじ】

大人にも子供にもなりきれない「私」の日常

(前書き)

この小説はフィクションです

直接的ではありませんが性や荒い描写があります

このからからになった喉をどうにかしてほしい

こんなにいつもと変わらない夜には
よく衝撃的なことが起こる

それは私が風呂の支度を整え風呂場へ向かったところから始まる

年のわりに老け顔の姉がいるリビングを通り過ぎて風呂場へ向かう

通り過ぎ様に姉が私を引き止めた

HDDに録画していたはずの番組が見れないというのだ

私の姉は機械に疎い

私は何の気持ちもなしにリモコンを操作し番組を見せる

はずだったが

「録画されてないみたいだね」

私は先日

姉が、楽しみにしていた番組を予約する姿を見たが

録画されていないということは誰かが消してしまったようだ

きっと父親だろう

私の父親は家電にミスターな上にスポーツとグルメ好きでよくそれらの番組を見ているのだ

始めこそ私は好きな番組を見れないせいでストレスをためたものの

人は臨機応変である
と共に諦めがつけば慣れ

何の違和感もなく楽しめるのだ

それは良いとでたのか悪いとでたのか

わからないし
今決めるべきことではないだろう

そうやって先伸ばしにすることが得意な私だから長期休みの間の宿題にもいまだに手をつけられないでいた

どうせ答えがついているのだ楽勝といえは楽勝である

余談がすぎた

本題に戻ろう

姉はHDDに録画されていないと聞くと悲痛な声で「なんで」を繰り返した

今は夜である

昔から声のでかい姉の騒ぎ立ては
隣の部屋で寝ていた父親を起こすはめになった

私は足早に風呂場へ急ぐ

一刻も早く今日1日の汗やら汚れやらをさっぱり落としたかった
と共にこれから起こることから少しでも逃げたかった

案の定姉の声は風呂場まで鮮明に聞こえた

だんだん声の質も音量も重さを増す

喚き声に変わる

テレビ1つでこんなに騒ぎになるのはどこの家にだってあることだ

ろう

父親の「俺は消してない」の連呼が耳に残る

姉の声はだんだん空気に溶けて

大きな物音がした

きつと姉が何かを強く投げたのだろう

予測はつく

立て続けに硬いものがぶつかりあう音がする
その騒音の間に父親の「うるさいよ」という、苛立ちを含んではい
るが冷静を装っている声が聞こえた

そして冷静を装うのは十秒ももたず

すぐに姉の叫びに似た甲高い声とバタバタと急ぐ足音が響いた

父親の怒りを剥き出しにしてもなお押し殺した唸り声が嫌で

私はさっさと服を脱いでシャワーをできるだけ勢いよく出した

そしていつかのカラオケの為に覚えた歌詞を口ずさんだ

もちろん今は夜

できるだけ声を抑えて歌った
息づきが苦しかった

はた迷惑な争いは20秒ほどで終わる

きっと姉がものを投げ飛ばしテーブルを押し倒し

できるだけの威嚇がすめば

一拍と置かず、今度は父親の加減を知らない「しつけ」が始まるのである

そして姉が泣き喚きドアを勢いよく閉めるのである

それで終わり

彼らは周りを考えたことはないのか

怒りにストレスをためるにためるのは第三者も同じであるという
ことを

私は風呂場に逃げたがりビングにいた母親は黙って聞いていたのだ
皿洗いを済ませるまで

個人的な考えとして

姉はさっさと一人暮らしすればいいのだ

前から一人暮らしをするといってはいたが、2年前から状況は変わらない

浪費家の姉にはまず無理だろうと私は思うが…

私の胸は今潰れている

傍聴人はリアルな争いに胸を締め付けられ、苛立ち、そして歪んだまま

一度歪めばあとは慣れるので人は気にも止めない

私も気にはならない

嵐はすぎればいいのだが、すぎるといふことは、嵐がすぎるまでの時間があるということ

誰もが嵐がすぎるまでの間に恐怖で胸を押し潰される

私はいつも姉と父親のその喚き声の嵐に

いつか映画で見たレイプシーンが重なる

姉の甲高い声が一層そう思わせた

そして気分が悪くなる

風呂場の熱気で頭がぼんやりして余計気持ち悪い

いつもより長い「しっけ」のおかげで

いつもより長く湯舟につかるはめになった

「しっけ」を目の当たりにするのはもちろん嫌だが

私はその後の現場とその空気が嫌いなのである

どうしようもないあの空気は耐えられない

そう思い、私は汗を洗い流す為にもう一度シャワーの前に立つ

そうすると自然と鏡に自分の成長過程の体が映し出される

成長期の体はすごく生々しいと思う

中途半端に膨らんだ胸に少しくびれたウエスト

まだ幼さの残る顔にほてった体

自分の体はこんなにも女じみていただろうか

気持ち悪い

レイプをする人は女のどの辺りにそう性欲を抑えられなくなるのだ

ろうか

無理矢理という行為に興奮するのか

悲痛に歪んだ泣き顔に快感をイコールでつなぐのか

どっちにしろえげつない

野生的である

女も男もその動物的などころを含めて人間なのである

映画のレイプシーンを見た私はその時いくらか幼く、今よりかずつと無知だった

だからその時はただの度の過ぎた乱暴なワンシーンに心を痛めただけだったが

今はわかっているのである

賢いとはほど遠いもの
いらぬものを覚えた私はひどく内臓が競り上がる思いがした

男と女と考えるからかもわからない

同性ならと考えてみる

前から同性愛に偏見はなかったものの
今ばかりはそれがとても清いものに思えた

同性愛といえどもセックスはするだろうしまれにレイプだってある
だろう

異性だろうと同性だろうと野生的な発想をもっている比率はそう変
わらないものなのだろう

では何故清く感じるのか

もしかしたら自分は同性愛者なのかもしれない

わからないが今はそんな気がした

風呂場から出て

リビングに戻った

まるで嵐はなかったとでもいうように普段通りに片付けられた部屋には

母親だけが椅子に座っていた

きっと片付けたのは母親だろう

その母親は今、何にも感情を映さずにそこにいた

私にはその気遣いさえ卑しいものに見えた

汚いと思ってしまった

自分が誰か心底好いた人に抱かれる日が来たら

その考えは変わるのだろうか

「しつけ」について

後に聞いた話のだが、父親は姉の顔を踏み倒したらしい

口の中から少量ではあったが血が出たという

20歳の姉のあまりに子供じみた反抗をなめられたと察した父親は、
厳しい「しつけ」をしたのだという

彼がそれをDVと気づくのはいつになるだろう

他人が言い聞かせても自分が納得しないかぎり考えを押し通す父親である

本人が自身の力で気づいて反省しないかぎり

度の過ぎたしつけはきつと続くだろう

姉も姉である

喚き声をあげ、暴れば周りが譲歩するとも思っているのだろうか

家族といえども

他人の集まりなのである

コミュニケーションは人間らしくこなしてもらいたい

いい加減少しでも自分を抑えることを覚えるべきである

人は日々変わり

昔より大人らしく社会的な外見にはなるが

中身は良い方向に変わるか悪い方向に変わるかなんてわかったもんじゃない

変わるといふのはある意味賭けなのだろう

なんでもない夜

人は胸を潰したままだけど

いつか笑える話しになるようにと
私は日記に書きつづった

笑えるわけないだろう

そう思ったが

人は慣れることにも慣れるのだ
面白くもきりのない名言である

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5939g/>

なんでもない夜

2010年12月10日18時27分発行